

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を基盤に、ASEAN諸国との連携・協働により、ASEAN諸国の課題への的確な問題解決能力及び英語による実践的コミュニケーション能力を有する、医学・保健学グローバルリーダーとして活躍できる医師、教育研究者、高度医療専門職者、医療産業人を養成する。

【構想の概要】

神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学を中心にコンソーシアムを構成し、ASEAN諸国との連携・協働により、短期間の派遣プログラム、単位を認定する交換留学及び博士課程の学位取得プログラムという多層的な派遣・受入交流プログラム等を企画・展開する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 交流プログラムの質の保証

①外部評価委員会: 外部評価委員による事業についての客観的な評価を受け、その評価をもとに事業の改善に取り組んでいる。

②実習評価制度の確立: 同一のテンプレートを元とし、コンソーシアム各大学の単位認定・評価基準を満たす評価書の作成をおこなった。

○ ダブルディグリープログラム実施に向けた協議

神戸大学医学研究科とガジャマダ大学医学部でダブルディグリープログラム実施に向けた協議を進めている。同様に神戸大学医学研究科とマヒドン大学シリラート病院医学部でダブルディグリープログラム実施に向けた協議を進めている。

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(派遣予定学生と受入学生の交流会)



〈派遣学生の病院実習〉



○ 派遣・受入プログラム

コンソーシアム各大学で、病院・地域実習や研究プログラム、学位取得プログラムによる学生の派遣・受入をおこなった。プログラム修了学生の体験談を本プログラムホームページに掲載し、成果の普及に努めている。

○ セミナープログラム・シンポジウム

日本・ASEAN諸国で関心の高い医療保健分野でのトピックスに関する学生シンポジウム、プログラム参加学生による成果発表会を、双方向遠隔授業システムを利用しコンソーシアム大学間で開催した。また、ガジャマダ大学で開催された国際セミナーでは派遣学生が企画の段階から参画し、研究発表とともに意見交換をおこなった。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	11	24	28	26	26
学生の受入	3	23	40	20	20

注)H24-H26は実績、H27以降は計画

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年度は計11名、平成25年度は計24名、平成26年度は計28名の派遣をおこなった。派遣人数は年々増加しており、派遣プログラムは順調に実施されている。平成27・28年度は、コンソーシアム各大学に毎年1~10名の派遣を予定している。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年度は計3名、平成25年度は計23名、平成26年度は計40名の受入をおこなった。派遣プログラムと同様に、受入人数は年々増加しており、受入プログラムは順調に実施されている。平成27・28年度は、派遣元の希望を踏まえ各大学から毎年2~15名の受入を予定している。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生と留学生の相互支援関係の構築に向けた取組み

受入学生の学業や日常生活の世話をする学生チューターの雇用、国際交流サークルの立ち上げと交流会の開催により学生間交流の活性化を図っている。この取組を通じて、学生間による自発的な相互支援関係が構築されつつある。

○ Elective Programの開設

神戸大学医学部医学科では、継続した学生受入をおこなうため、Elective Programのホームページを開設し、参加学生の募集をおこなっている。また、カリキュラムを明確にするためシラバスを作成し公開している。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況・情報の公開・成果の普及

○ ホームページ、双方向遠隔授業システムを利用した情報の公開成果の普及

本プログラムの日本語及び英語のホームページ(<http://www.med.kobe-u.ac.jp/asean/>)を開設し、プログラム概要や参加者の体験談等の掲載を随時おこない、その広報に努めている。また、双方向遠隔授業システム等を利用することで国内外の大学を結び学生による成果発表会を実施し、学内外の学生や教職員への成果の普及に努めている。

(プログラム参加学生による成果発表会)

